

学びのR

No. 37 (令和3年3月)
埼玉県教育局南部教育事務所
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/g2201/index.html>

「R」は「reform(改革)」の頭文字です

*** 「指導と評価の一体化」で授業改善⑩ ***



～「小・中学校 道徳科」編

「登場人物に関する自我関与が中心の学習」～

*今回は、「指導と評価の一体化」の視点から、「登場人物に関する自我関与が中心の学習」について紹介します。



「登場人物に関する自我関与が中心の学習」とは、どんな学習ですか？

教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることを通し、道徳的諸価値の理解を深める学習です。



登場人物に関する自我関与はなぜ必要なのでしょう？

道徳科の授業の中で、児童生徒は発問に対して、「望ましい答え」を言おうとして、なかなか本音を言わないことがあります。特に、人間的な弱さを問う場合は、なおさら本音は言いにくくなります。しかし、児童生徒が本音を言わないと、授業は深まりません。

登場人物を介することで、児童生徒の本音を引き出すことができます。



埼玉県マスコット「コバトン」

「登場人物に関する自我関与が中心の学習」を充実させるためのポイントはありますか？



ポイントは次の2点です。

- ① 自我関与する登場人物を絞る。
- ② 児童生徒が自我関与できるよう、工夫する。



PICK UP! 児童生徒に自我関与させるためのポイントは？

- ① 児童生徒が、自我関与する登場人物を絞ることです。

教材に登場人物（動物等）が複数いる場合、だれの視点で考えるかは非常に重要です。ねらいを達成するために必要な登場人物に自我関与させましょう。また、小学校低学年、中学年くらいでは、複数の登場人物の視点で見ると、児童が混乱することがありますので、注意が必要です。

- ② 児童生徒が自我関与するための工夫をすることです。

例えば、下記のものがあります。

- ・教師が範読の際に、児童生徒が、視点となる登場人物になりきって聞くように指示する。
- ・場面絵、お面等で、登場人物になりきらせる。
- ・児童生徒にペープサートを持たせて発言させる。

※では、実際に、授業はどのようにすればよいのでしょうか。裏面を御覧ください。

内容項目 [B 相互理解・寛容] 教材名「友とのトラブル」(「彩の国の道徳」(高学年)) の例

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 相手の都合で(約束を)破られた時の気持ちを発表する。	・突然、用事ができることもあるから仕方がない。	・身近に起こりそうな出来事について尋ね、問題意識をもてるようにする。
展	2 教材の読み聞かせを聞き、 加奈 の心の変化を中心に話し合う。 視点を1人に絞ることで、考えやすくなります。	・ 1時間も遅れてくるなんて許せない。 ・遅れてくるくらいなら、連絡してくれればいいじゃない。	・ <u>加奈の気持ちになって聞くことで、自我関与させます。</u> ☆主人公に共感しながら、 <u>自分事として発言しているか。</u> 加奈の気持ちを問う(登場人物に託す)ことで、 <u>児童生徒の本音を引き出す</u> ことができます。【評価②】
	・唯のことが許せないでいる加奈はどんな気持ちでしょうか。 ・亜由美の話を聞いて、加奈はどんなことを考えたでしょう。 ・唯の家の前に立ち、呼吸を整えている加奈はどんな気持ちでいるでしょう。	・遅れてきた唯が悪いんだから謝らない。 ・唯の話を聞こうともしないで一方的に怒ってしまった。 ・謝りに行こう。 ・唯にもきちんと謝ろう。 ・唯の気持ちも考えず、一方的に怒ってしまった。 ・唯の話を聞いて謝ろう。	☆許せる気持ちと許せない気持ちを話し合う中で、 <u>多面的・多角的</u> に考えているか 許せる気持ちと許せない気持ちを話し合わせることで、視点とする登場人物を変えなくても、 <u>多面的・多角的な思考を促す</u> ことが可能です。【評価①】
開	3 今までの自分を振り返り、よりよい生き方を考える。	・ここで登場人物から離れて、自分自身を見つめます。 【評価①②】	・書く活動を取り入れ、自分自身をじっくりと見つめさせることによって、ねらいとする道徳的価値について自覚を深めさせる。
終末	4 校長先生の話を聞く。		道徳科の評価はこの2つの視点で評価します。この評価を行うためには、 <u>2つの視点で指導</u> を行っていることが必要です。 <u>指導と評価が一体</u> となっている必要があります。

・**評価の視点**

【物事を多面的・多角的に考えている様子】【評価①】

- ・主人公に自分を投影しながら考え、話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】【評価②】

- ・謙虚な心を持ち相手の立場や考えを受け止める意義について自分との関わりで考えている。

※下記の参考資料を参照してください。

引用 埼玉県小学校教育課程編成要領 (H30. 3) から引用して作成
 ※引用した部分は、ページ数を示してあります。(例 p.〇〇)



「学びのR」
 はこちらからも御覧いただけます!